

承知ありたく候

□原色版『初秋の花』はワツトマンハツ切大のスケツチに御座候。『臺灣本島人の顔』のスケツチは木炭紙四ツ切大にして、夜間の寫生のよし、此分製版少しくヤリ損、頼のあたりの色出合はず、筆者及讀者に申譯なき事に相成候

□石川欽一郎氏は此の程臺北學院に於て「色彩」「位置」「遠近」「明暗」「寫生心得」「概論」等水彩畫講話を試みられ候、右の大要は來號より本誌に登載可致候

□本號は八月十日を以て編輯メ切に致候ため、鎌倉及長野に於ける講習會の事は次號迄御待下され度候、こゝには双方共極めて盛會なりし事を御知らせ致置候

□本誌缺本、初號より二十一號迄及二十九、五十、五十二等に御座候四十二、四十九、五十一等は二冊を剩し居候、近刊の分往々品切を生じ候間御入用の方は至急御注文被下度候

□本誌品切の分再刊御請求あるも、着色版は到底出來難く候間、再版不可能と御

□毎度申事ながら注々用紙、振替貯金通信文欄等へ本誌原稿質問等御記入相成候

分はずべて没書と可相成候。寄稿類は必ず別紙に認められたく、假名は平假名に願上候。また西洋紙にて表裏兩面へ細字にて認めしものも迷惑致候

□御寄稿にして是迄登載せざる分澤山有之候、それは紙面の都合にもよれど、時節の關係も有之候。春の出來事を夏時分御投書になると、掲載は秋になるといふやうな次第で、このやうなのは不得止來年の春迄保存し置く事と相成候

□未完の御寄稿は登載せざること可有之候

□讀者諸君より暑中見舞狀を寄せられし方多し、幹部諸員無事斯道に盡し居候間御安心下され度、爰に御厚志を謝し申候

紹介

◎東洋藝術資料は本邦、支那、朝鮮、印度を始め其他一般東洋藝術に關する正確なる資料の選集にして、原本は每號凡二十葉宛アートタイプにて複製し、所藏者

たる伊東、塚本、關野三博士の責任ある

説明を附せらるべく、定價は一部郵税共六十二錢、十二部六圓にして、第一集は支那周漢の部、古銅器及其紋様にして、九月一日を以て發行せらるべしといふ

問に答ふ

■獨習で木炭畫の稽古は不可能なりや、また鉛筆畫のみでは筆のイザケルといふ患なきや(北海の一讀者)◎不可能にあらずたゞよき參考品なきのみ、又鉛筆畫と雖も畫き方によりて筆のイザケルといふことなからん■水彩畫を學ぶに必ず人物畫を習ふべきや、必要なら其獨習法を知りたじ(曉村生)◎前號靜物寫生の話を見られよ■チューブ入繪具固まりて困る、いかにしてよきや(自然子)◎管を破つて繪具を取出し湯に浸して軟かにしグリズリンを入れて練直すべし■サロン其他の裸體畫を集めしもの、又は一枚ものにてもよろしけれど購求することを得べきや(玉島愛讀生)◎巴里發行ヌー、ド、サロンといふ裸體のみ集めしもの年々出版せら